

日本科学未来館賞受賞！

－第63回日本学生科学賞中央最終審査－

- ◇ 期 日 令和元年 12 月 22 日(日) ～12 月 24 日(火)
- ◇ 場 所 日本科学未来館(東京都江東区)
- ◇ 参加者 SS 化学部 山澤晟嘉(35H) 森山和(12H) 横山愛子(17H)
- ◇ 指導者 浮田直美先生

12 月 22 日(日)から 12 月 24 日に日本科学未来館で開催された、第 63 回日本学生科学賞中央最終審査に参加した。全国から予選・中央審査を通過した、中学生・高校生合わせて 40 チームの内の 1 チームとして SS 化学部員 3 人が堂々と発表した。

初日・2 日目の午前中に最終審査会が行われた。昨年までの実験を引き継ぎ 4 月から続けてきた、ポリアクリル酸ナトリウムを用いることで正八面体の NaCl 結晶が成長する、という研究について発表した。初日には 5 分以内という時間制限があり、大変緊張したが、発表回数を重ねるうちに「どのように説明したらこの結晶の魅力を伝えられるのか」などを考えて話すことができるようになった。また、3 年生の発表を間近で見ることができたのも貴重な経験だった。説明の仕方、受け答えなど学ぶところが大変多かった。高校・大学の先生方から質問やアドバイス、これからこのような実験をしてはどうかというアイデアなどをたくさんもらったので、これからの研究・発表に役立てていきたい。

2 日目の午後・3 日目には作品を自由に見学する時間があつた。自分たちのブースで説明をしたり、他の学校の研究の説明を聞いたりした。ユニークな着眼点をもった質問や発表が多く、惹きこまれた。様々な見方を取り入れて今後も研究を続けていきたい。自由時間には、会場である日本科学未来館の施設展示を見る機会もあり、大変興味深く、見学しこれからの科学の姿について考えた。



3 日目の表彰式では、秋篠宮皇嗣殿下の御臨席のもとに、宇宙飛行士であり科学を目指す人々の目標の一人でもある毛利衛さんから日本科学未来館賞を表彰された。光栄の至りであり、大変感激した。

このように大きな大会に参加できたことに感謝するとともに、今回学んだことをこれからの生かしていきたい。

